

平成29年11月30日

はだのクリーンセンター環境運営委員会（視察報告）

1 視察日

平成29年11月8日（水）

2 出席者（15名）

- (1) 委員（6名）
- (2) 自治会参加者（3名）
- (3) 二市組合参加者（2名）
- (4) 事務局（4名）

3 視察場所

- (1) 株式会社エフピコ東海選別センター
（静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1）
- (2) 株式会社ヤクルト本社 富士裾野工場
（静岡県裾野市下和田字十三郎653-1）

4 目的

当委員会は、はだのクリーンセンターの安全安心な管理運営の推進のために施設管理の参考となる焼却処理の先進施設や資源化处理施設等の視察を実施している。

本年度は、ごみ減量に対する意識啓発を目的とし、静岡県内のリサイクル施設及びリサイクルを積極的に導入している施設の視察を実施した。

5 内容

(1) 株式会社エフピコ東海選別センター

ア 施設概要

この施設では、トレーやペットボトルのリサイクル事業を行っており、スーパーマーケットなどから一度使用されたトレー・ペットボトルを回収し、リサイクル工程で必要なトレー・ペットボトルの選別作業を行った後、再生リサイクル工場へ搬出している。

選別作業には、地元の社会福祉法人「共生会」を通じて障がい者を雇用するなど地域における社会貢献活動にも取り組んでいる。

イ 内 容 (質疑等)

- トレーの処理は1日どれくらいかの質問に対し、1日当たり800キログラム程度、月に15トン程度と回答された。
- 大型スーパーマーケットでは、白と色付きのトレーをそれぞれの回収ボックスで分別していると思うが、搬入した袋の中を見ると白と色付きのトレーが混ざっているものも見受けられるが何故かとの質問に対し、スーパーマーケットによっては回収ボックスが1つしか設置できない店舗があるため、その店舗では混在の回収になると回答された。
- ペットボトルのリサイクル率はどのようなかとの質問に対し、ペットボトルがリサイクルされている率は92.4パーセント、トレーは14パーセントと回答された(2015年統計)。また、トレーの回収率が少ないため、皆さんに更なる協力をしてもらいたいと回答された。
- ペットボトルを圧縮しパレットに積んでトラックで搬出しているが、1パレットどれくらいの重さがあるのかとの質問に対し、200キログラム程度と回答された。
- 回収ボックスにペットボトルを出すときは、ラベルを外しておいた方がよいのかとの質問に対し、再生リサイクル工場では風力選別の工程でラベルが取れる設備はあるが、基本的にはラベルを外す協力をしてほしいと回答された。

《株式会社エフピコ東海選別センター》



↑ 《トレー選別作業》

《ペットボトルの圧縮作業》 →



(2) 株式会社ヤクルト本社 富士裾野工場

ア 施設概要

この施設は乳製品・乳酸菌飲料を製造している工場であり、環境への取組を積極的に行っている。工場敷地内にエコタウンという施設を設け、工場の生産活動で排出される様々な廃棄物を分別しリサイクルしている。工場で働く社員が分別のルールを守り、リサイクル活動を展開している施設となっている。また、工場の排水は、排水処理槽の中にヤクルトの空容器を入れ、そこに住みつく微生物の力を利用してきれいにする“ヤクルトA&G水浄化システム”できれいにしてから河川に放流している。

イ 内容（質疑等）

- ・ ヤクルトは、どれくらいの量を生産されるのかの質問に対し、生産本数は1日約120万本生産されていると回答された。
- ・ 工場から出たごみは、どれくらいの割合でリサイクルされているのかとの質問に対し、富士裾野工場ではエコタウン施設で分別し100%リサイクルされていると回答された。
- ・ 工場の排水は、どれくらいの時間をかけて河川に放流しているのかとの質問に対し、2～3日で放流していると回答された。



↑ 《エコタウン》

《排水処理システム》 →



《ヤクルト本社 富士裾野工場》



6 まとめ

ごみの減量は、秦野市及び伊勢原市における重要な課題の1つである。今回、リサイクル施設という具体的な事例を視察したことで、よりごみの減量と資源化に対する意識が高まった。帰りの車中でも委員長から、ごみの減量の検討を今後も進めていきたいとの話があった。

今後の当委員会活動としては、引き続きはだのクリーンセンターの安全安心な管理運営を見守るとともに焼却処理量の削減に向け、ごみの減量に対する意識啓発を図り、はだのクリーンセンター周辺的生活環境の保全に努めていきたい。